

百名山自然ガイド <sup>たん ざわ</sup> 丹沢

<sup>とうのだけ たんざわさん ひるがたけ</sup>  
初夏の塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳

山頂の標高:1491m・1567m・1673m

## 初夏の花：トウゴク ミツバツツジ と シロヤシオ

おしべが  
10本



枝先に  
3枚の葉



### トウゴク ミツバツツジ

中腹に咲くミツバツツジとそっくりですが、おしべが10本あって多い(ミツバツツジは5本)ことや、葉柄(ようへい:葉と枝をつなぐ部分)がごく短いところがちがいます。



シロヤシオは、純白のふわっとした花を少し下向きに咲かせます。

葉のふちに赤み

枝先に5枚の葉。ゴヨウツツジとも呼ばれます。



### シロヤシオ

5cm



木の幹(みき)はちょっとアカマツみたいで、マツハダという名前ももらっています。育つのが遅く、芽生えから花が咲くまで20年、幹が10センチの太さになるのに50年と言われます。

5月半ば、丹沢の山の上では、2つのツツジ(赤紫色のトウゴク ミツバツツジと真っ白なシロヤシオ)が、たくさんの花を枝いっぱい咲かせます。一年の中で、丹沢の山が一番はなやかになる季節と言えるかもしれません。

## ヤマツツジ とつぼ型 やつりがね型のツツジ



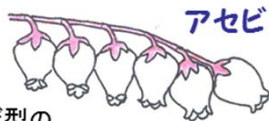
ヤマツツジ

5cm

丹沢の中腹には、オレンジ色のヤマツツジもたくさん咲いています。

ツツジのなかまには、つぼやつりがねの形をした花を咲かせるものもあります。

アセビは、小さな白いつぼ型の花を枝にぎっしりつけます。



アセビ

2.5cm



### サラサドウダン(フウリン ツツジ)

花の 모양を「さらさ(更紗)」という染め物に、油を燃やしてあかりにした「どうだん(灯台)」という古い道具に形をなぞらえてその名がついたと言われます。もっとも「どうだん」にどのように似ているのかは、あまりはっきりしていないようです。



白い花をつけたものはシロバナフウリンツツジと呼ばれます。

「つつじ」という呼び名は古くから日本で親しまれていて、万葉集(まんようしゅう)に何度も出てきます。ここで、「じ」という言葉には「～のような」という意味が込められることがあります。花の形を「つつ(筒)のようなもの」と表現して、「つつじ」の名が生まれたのかもしれませんが。

## 初夏の鳥：ホトギス、ツツドリ、カッコウ



3種とも姿や色がよく似ていますが、体の大きさや、胸～腹のしまもようにちがいがあります。

3

初夏の丹沢には、ホトギスやツツドリの声がひびいています。同じ仲間のカッコウや、聞きなれない名前かもしれませんが、ジュウイチという鳥の声が聞こえてくることもあるかもしれません。ぜひ、耳を澄ませてみましょう。

**ホトギス** 鳴き声を「特許許可局(とつきよ きよかきよく)」と表すことが広く知られています。4音目にアクセントがあり、最後の6音目は聞こえないこともあります。

万葉集が作られた古い時代から、ホトギスは「ほととぎす」または「ほととぎ」と鳴くとされたようです。文字の数が音の数だけありませんが、例えば「ほととぎい」と伸ばして当てはめたのかもしれませんが。

「てっぺん かけたか」と鳴いているという人もいます。この場合は、「っ」を除いても7文字ありますから、たとえば2音目の音に「ぺん」の2文字を当てはめたのかもしれませんが。

**ツツドリ** 「ぽーぽー」とか「ぼんぼん」とか、竹筒をたたくような、よくひびく音が山の中に広がったら、それはツツドリの声です。鳴き声そのものではありませんが、ツツドリの名前が、その声から付けられたことは言うまでもありません。

**カッコウ** 鳴き声が、そのまま鳥の名前になりました。かんこどり(閑古鳥)と呼ばれることもあります。これも、鳴き声を「かんこ」と聞いて付けられた名前のようです。

## ホトギスのなかまの 鳴き声比べ



とつきよ きよか きよく  
てっぺん かけたか  
キョッ キョ キョ キョ キョ キョ

(実際には、これより1オクターブほど高い音が大きく出ています)



ポ ポ



カッ コー

鳴き声をことばで表すことを「聞きなし」といいます。ホトギスの仲間だけでなく、いろいろな鳥がそれぞれ特ちょうのある声で鳴いています。何と鳴いているか、新しい聞きなしを自分で作ってみるのはいかがでしょう。

## 初夏の鳥：ジュウイチ

### おとなのジュウイチ

胸～腹がオレンジ色

ホトギスのなかまでは  
中くらいの大きさ  
(ツツドリくらい)

### ジュウイチの鳴き声

♩ = 150



じゅ い ち い  
じゅ う い ち  
じ ひ し ん

(実際には、これより2オクターブ  
ほど高い音が大きく出ています)

目のまわりが  
黄色



### ジュウイチの子ども

子どもは、背中やつばさ、  
尾羽などが、全体に茶色  
がっています。

子どものうちは、胸～腹は  
白くて、たて長の黒っぽい  
点々もようがあります。

タカのなかまにも同じよう  
なもようのものがいます。  
タカに似せて、まわりに  
強そうに見せかけること  
が、子どもが生き残る  
のに役だつようです。

10cm

「十一」という名前や「慈悲心鳥(じひしんちょう)」という別名は、  
その鳴き声からついたにちがいません。

5 ジュウイチは、胸～腹のオレンジ色が目につきます。その姿にはタカのような  
風格がありますが、口ばしは細長くてタカとはちがい、他のホトギスのなか  
まと同じように、毛虫などをつまむのに都合のよい形をしています。



## ふしぎな性質：託卵(たくらん)

○ホトギスの仲間は、初夏に、海を渡って南の国から帰ってきます。そして夏が終わると、また南の国へ出かけてしまいます。日本の寒い冬が苦手のようなのですが、ごちそうにしている小さな虫(主に毛虫)がいなくなってしまうのが、一番困ることのようです。

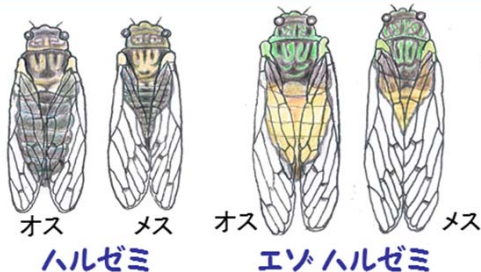
○ホトギスのなかまは、他の小鳥に自分の卵を育ててもらいます。卵を暖めている巣からその親鳥がちよつと離(はな)れたすきに、巣にある卵と自分の卵を取りかえてしまうのです。

○卵を育ててもらう相手は、種類によってちがっています。ホトギスはウグイスなど、ツツドリはセンダイムシクイなど、カツコウはモズなど、ジウイチはオオルリなどに親代わりになってもらいます。しかし、生みつけた卵が放り出されたり、その巣の親が戻ってこなくなる場合もあり、子供が育つかどうかは分かりません。

○自分たちが亡びてしまわないかどうかのカギを他の鳥にあずけてしまうのですから、そんなことになった進化の道すじにどんないきさつがあつたのか、ふしぎです。

## 山で鳴くセミ：ハルゼミとエゾハルゼミ

主に5～6月、山の中腹で地味な声で鳴いているのがハルゼミです。でも、それとまるでちがう、鈴を鳴らすような澄んだ高い音も出しています。人に聞こえる限界に近い高さなので、聞こえたら自慢かもしれません。



エゾハルゼミはお日さまが大好き。主に6～7月、山の上の林に日がさすと、大合唱が始まります。

ハルゼミの  
鳴き声



エゾハルゼミ  
の鳴き声



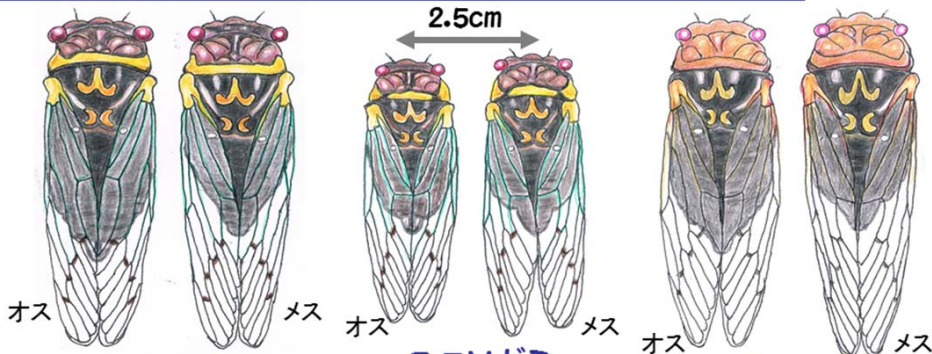
(実際には、ハルゼミは3オクターブ、エゾハルゼミは2オクターブほど高い音が大きく出ています)

7

山には、街ではあまり見かけないセミが住んでいます。小鳥とはちがう聞きなれない鳴き声を耳にしたら、それはセミの声かもしれません。



# 山で鳴くセミ：エゾゼミとその仲間



**エゾゼミ**

**コエゾゼミ**

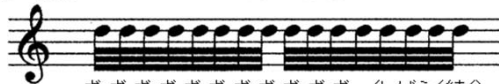
**アカエゾゼミ**

♩=360

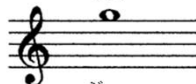
主に8～9月に活動

主に7～8月に活動

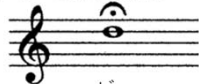
主に8月に活動



ギギギギギギギギギギギ (しばらく続く)



ジー



ピー

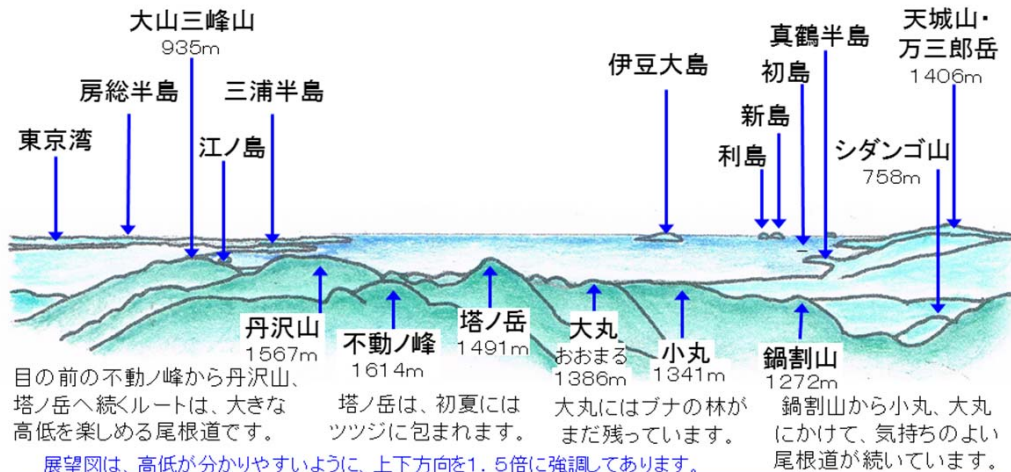
**エゾゼミのなかまの鳴き声比べ** (3種とも、3オクターブほど高い音が大きく出ています)

真夏には、エゾゼミの鳴き声も聞けるかもしれません。主に山の中腹で、力強い声で鳴きます。同じなかまには、コエゾゼミやアカエゾゼミもいます。

ひるがたけ  
**蛭ヶ岳山頂からの展望 南東～南**

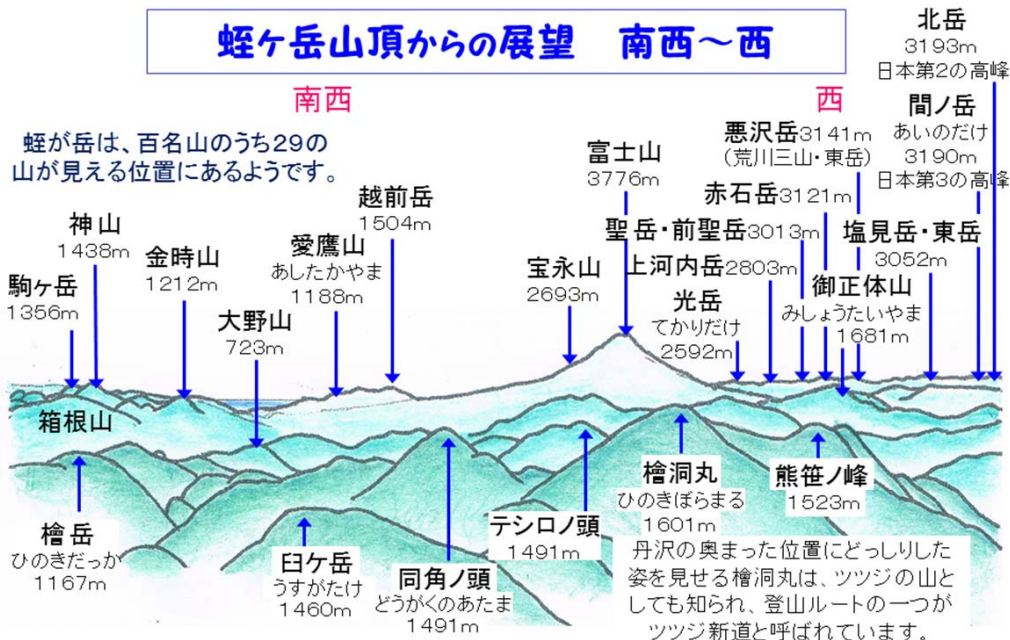
南東

南



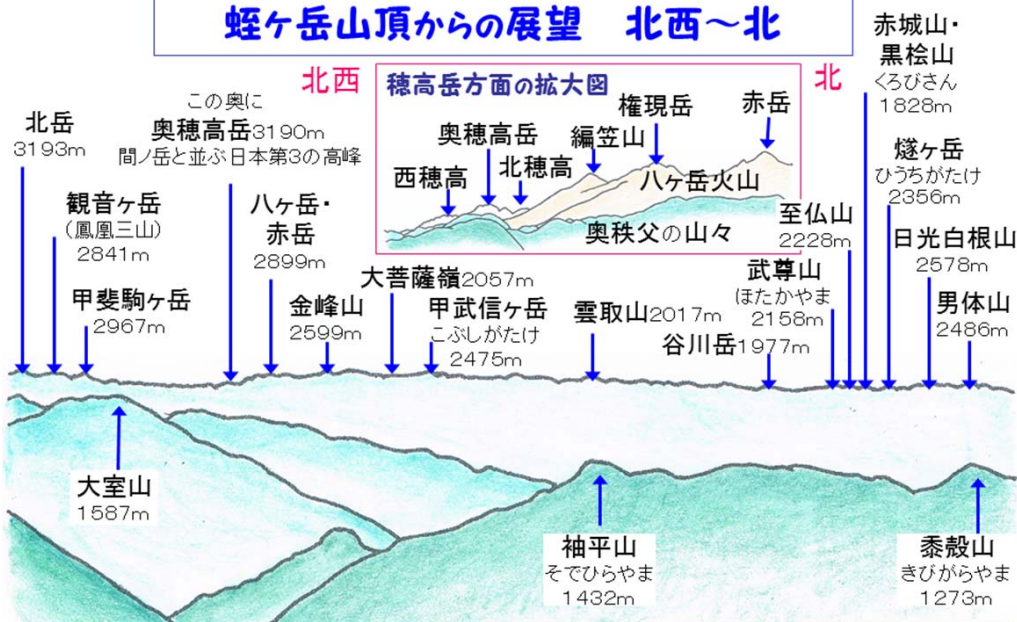
9 蛭ヶ岳の高さは1673m、丹沢で一番高い山です。山頂には、逆光で光る相模湾や、富士山、南アルプス、奥秩父、北関東へと続く山々の、雄大な展望が広がります。

# 蛭ヶ岳山頂からの展望 南西～西



蛭ヶ岳は、元々は「びるがたけ」という名前だったようです。仏教や修験道で大切にされる「びるしゃな仏」にちなんで名付けられたのではないかとされます。

# 蛭ヶ岳山頂からの展望 北西～北

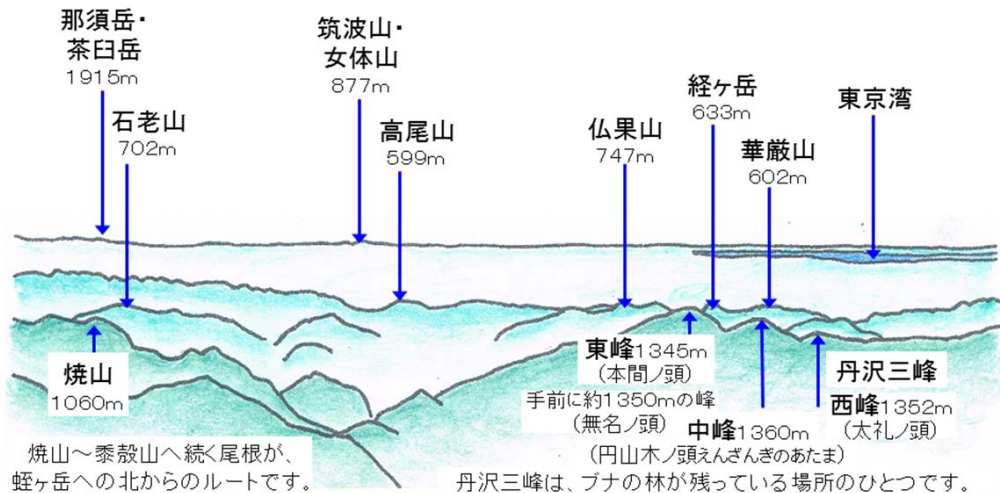


丹沢の北西方向に八ヶ岳がありますが、その左側、もっと手前の山の稜線(りょうせん)の奥に穂高岳が位置します。抜群のお天気の日、姿を見せてくれるかもしれません。

# 蛭ヶ岳山頂からの展望 北東～東

北東

東



ブナの美しい原生林に包まれた丹沢の山々でしたが、1970年代から立ち枯れが目立ち始め、丹沢山や檜洞丸など、ずいぶん様子が変わってしまいました。



## 岩を見て分かる丹沢の歴史

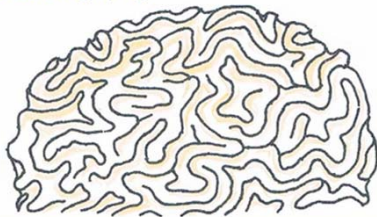
### オウムガイのなかま



丹沢では、サンゴやオウムガイの化石が見つかっています。丹沢が、大昔には南の海にあった証拠(しょうこ)とされています。

オウムガイは、イカやタコに近い生き物です。巻貝のような「から」を作って、その中に入っています。

### サンゴのなかま



サンゴの中には、迷路のようなひだを作るものがあります。中に住んでいるたくさんのサンゴの個体が、海水からカルシウム分を取り込んで、ひだのような壁(かべ)を共同して作ります。

今から1600万～1300万年くらい前、丹沢の地は、サンゴが育ちオウムガイが泳ぐ亜熱帯の海の中でした。近くには海底火山や火山島があり、溶岩が流れこんできたり、火山灰が海底に積もったりしていたことが、丹沢の山を作っている岩を調べることで分かります。それから長い長い年月をかけて丹沢をのせた岩盤が日本列島に近づいてきて、やがてそこに付け加わったらしい、と考えられています。



「百名山自然ガイド」は、山歩きの楽しみをいっそう大きくすることのお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。丹沢では、四季それぞれに分けた案内を下記に掲示しました。機会がありましたら、どうぞご利用ください(http から https へ変更しました)。

<https://yama3823.com/100meizan/tanzawa/index.html>



左のアドレスのQRコードです

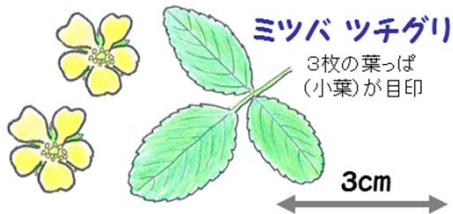
なお、いろいろ思い違いもありそうです。間違いにお気づきのときやご感想など、お寄せいただけると嬉しいです。 yama\_3823 @ yama3823.com (メール送付のときは、添付ファイルはつけないようお願いできるでしょうか)

- 山では、ちょっとした不注意や判断ミスが事故につながります。  
安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。
- ほとんどの山で、登山届の提出が求められています。  
予定のコースや日程を、入山前に届け出ましょう。
- 動植物や岩石の採取等が禁じられている区域がたくさんあります。  
そうでない場合も、ありのままの自然を大切にしましょう。
- ごみの放置は、生態系に大きな影響を与えます。  
ごみは各自で持ち帰りましょう。

2022年5月作成 11月修正： © 百名山の自然ガイドを作る会

# 山の上に咲く バラのなかま

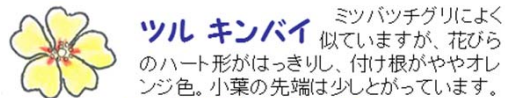
登山道の足もとをかざるように咲く花を集めてみました。



**ミツバ ツチグリ**

3枚の葉っぱ  
(小葉)が目印

3cm



**ツル キンバイ**

ミツバツチグリによく似ていますが、花びらのハート形がはっきりし、付け根がややオレンジ色。小葉の先端は少しがっています。

**よく似た花は他にも**

岩場に咲く小さい花(直径1cmくらい)なら→**イワ キンバイ**

花が小さめで小葉が5~9枚あったら→**キジ ムシロ**

小葉は5枚か7枚が多いが、先端の3枚以外はごく小さく、

地面をはう茎をもっていたら →**ツル キジムシロ**

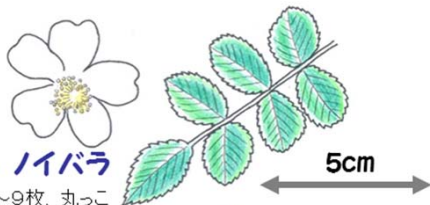
小葉は3枚、花びらの後に大きな副がく片→**ヘビ イチゴ**

小葉は3枚、花の色が白→**シロバナノヘビイチゴ(モリイチゴ)**

このなかまは小葉(しょうよう)と呼ばれる葉をもっています。元々は1枚の葉でしたが、何枚もの小葉とそれをつなぐ、枝や茎に見えるものに変化しました。

**テリム ノイバラ**

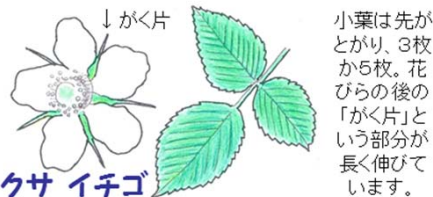
小葉は5~9枚、丸っこいものと先がとがったもの、両方あります。



5cm

小葉は細長く  
5枚か7枚

**バラ イチゴ**



↓がく片

**クサ イチゴ**

小葉は先がとがり、3枚か5枚。花びらの後の「がく片」という部分が長く伸びています。

3方向に突き出た葉をもつニガイチゴ、3方向のうち中央が細長く伸びたミヤマニガイチゴというものもあります。

## 作成記録: 主な変更点など

- ・ 2022年5月作成.
- ・ 2022年11月, レイアウトなど小修整.
- ・ 2023年4月, 文字の大きさなど微調整.
  
- ・ 鳥の鳴き声については、日本野鳥の会など、ネットで聞かせてくれるサイトがあるほかCDが付いた図鑑がいろいろ出版されています。中でも「日本野鳥大鑑」は、ライフワークとして野鳥の鳴き声の録音に力を注いだ蒲谷鶴彦氏の集大成です。
- ・ 『日本野鳥大鑑・鳴き声420・増補版』、蒲谷鶴彦・松田道生著、小学館、2001年発行、447頁＋CD6枚(販売時の価格1万5000円＋税)、
  
- ・ セミの鳴き声についても、ネットで聞かせてくれるサイトがありますが、出版物としては日本産のセミを網羅した「日本産セミ科図鑑」に付属したCDや、西条自然学校という団体が頒布している「愛媛のセミCD図鑑」があります。
- ・ 『改訂版・日本産セミ科図鑑』、林正美・税所康正編著、誠文堂新光社、2015年発行、220頁(価格4600円＋税)。
- ・ 『愛媛のセミCD図鑑』、今川義康・山本貴仁編著、西条自然学校、2014年発行(愛媛産の14種を収録していますが、これは本州産の主要なセミを網羅、コンパクトながらオリジナルな解説や写真を満載した40頁の小冊子が付属、頒価1500円＋税＋送料)。